

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390500169		
法人名	株式会社 AKIコーポレーション		
事業所名	グループホーム 咲こまい 2階		
所在地	名古屋市中村区佐古前町1-26		
自己評価作成日	平成28年2月8日	評価結果市町村受理日	平成28年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市中村区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	平成28年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今、咲こまいがアピール出来ることは個人レクに力を入れている事で利用者様の希望で名古屋地下の「コンパル」に電車で行ったり、キリンビール工場、アサヒビール工場など工場見学に月に1回のペースで行っております。また、職員の誕生日に車で岐阜の白川郷と高山、栄の三越など百貨店めぐり、美術館、また要支援1になり退所が決まった方とリトルワールドに「さよなら日帰り旅行」を致しました。TVのCMを観て、「明治村に行きたい」との声を拾って全員で咲こまい初の秋の遠足と称して「明治村」も行ってきました。ご家族様、ボランティアの方のご協力で実現しました。そして、年末には「名古屋港水族館」に希望者のみ参加され、一日置きに「クリスマス会」地域の方のご参加も募った「餅つき大会」、年始にはまた全員で「熱田神宮」に初詣に参りました。日常も週1回から10日に1回の割合で喫茶店に行き気分転換と地域の方との交流も欠かさず行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム咲こまいは、名古屋駅より北西に車で5分の場所に位置する、2ユニットの事業所である。開設から3年が経ち地域との関わりも増え、会えば挨拶を交わす等、ホームの周知も進んでいる。今年も、夏祭り・ハロウィンパーティ・認知症カフェ等、地域へ向けての取り組みを活動的に行ってきた。特に認知症カフェの開催に際しては、地域、いきいき支援センター、市、他事業所など関係各所からの協力を得ている。更に今年度は、個別支援を強化している。入居者個々のいきいきした暮らしを叶えるために、家族との連絡を密に、時には、行政へ報告、相談を行いながら、積極的に取り組んできた。また、地域の喫茶店等へ日常的に出かけ、そういった日々をおたよりと共にブログを活用して発信し、誰でも様子を伺い知ることの出来る、家族や地域に開かれたホームを実現している。職員は入居者の笑顔を引き出すことを大切に、そのための雰囲気作りに努めている。今後も入居者、職員ともに生き生きと活動し、大いに発展していくことが期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各リビング・玄関に理念を、掲載している。毎朝申し送り時に「咲こまい」の理念を職員で合唱し共有している。	理念に則り、地域との交流、笑顔ある暮らし、個別の支援を 実践している。特に今年は、個別支援に力を入れている。また、入居者の笑顔を引き出すために、職員間のチームワークを高め、ホーム内の雰囲気づくりに配慮している。理念は、事業所内に掲示し、毎朝の唱和によって共有されている。また、「咲こまいだより」に毎回掲載し、広く周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも参加しており、町内会議の場所を提供している。行事の参加も呼び掛けて交流の場を増やしている。敬老会など参加し、夏祭りには学区の女性会さんが踊りの御指導やお祭りに参加して頂けました。	加入している町内会の会議開催場所を、当ホームが提供しているため、地域と密接な関わりがある。地域情報収集や、ホームの取り組みや開催行事の周知等ができています。今年は、夏祭りやハロウィンパーティを開催した。子どもを含めた地域住民の多数の参加があり盛況であった。盆踊りの指導に女性会の来訪があったり、学区の盆踊りへ参加している。開所当時から居居屋レクも、入居者の健康状態に配慮しながら実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を通して、ホームの活動を知って頂き、行事など地域の方々の訪問を増やす事に努めている。また、2/3に認知症カフェを開催致しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議を2ヶ月に一度開催しており、積極的に意見を頂きたい参加して頂く事で、サービスの向上に努めている。地域運営推進会議や行事に参加して頂く事で、利用者様やグループホームを理解して頂いている。	年6回、入居者、家族、民生委員、町内会副会長、いきいき支援センター職員が参加し開催している。取り組みや現状報告をし、また、ホーム行事の計画や反省、防犯について、意見交換を行っている。参加者から、認知症カフェ開催についての助言や協力も得ており、会議に挙がる意見、提案がホームの運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは地域運営推進会議の場以外でも、意見や助言を頂き、サービスの向上に努めている。また、認知症についての勉強会をやって頂けるよう、お話している。	相談等は内容により、市やいきいき支援センターに都度聞いている。また、月に1度、ホーム便りを届けに出向いている。認知症カフェ開催の際には、市の担当者の見学、また、いきいき支援センター職員との協働があった。該当職員は、中村区内の事業所連絡会の定期研修へ毎月参加し、キャリアアップを図っている。市主催の研修へも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会議の時や申し送りの時に身体拘束についての勉強会を行っている。身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。また、玄関・各階のエレベーターの施錠については、防犯上・立地的な問題での常識範囲内で行っている。	身体拘束について、フロア会議での事例検討や、参加職員による外部研修内容の共有にて、理解を深めている。転落、転倒時の事故防止に床に直接布団を敷いたり、クッションマットを用いている。対応は、随時家族と相談しながら検討している。緊急やむを得ない場合には、行政の指導を仰ぎながら、月に1回のモニタリングを経て、時間を限定し、手順に沿って行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議の時や申し送りの時に虐待防止についての勉強会を行っている。職員全員が虐待に対して正しい知識を持ち、言葉でも虐待になる事を理解してもらい、利用者の尊厳が失われないよう、努めている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・リーダーが主となり権利擁護に関する内容を学んで伝えていっている。また、いつでも助言や説明ができる様に努めている。また、最近では身元保証の場に立ち会っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書など読み上げて、確認しながら説明を行っている。不安点や疑問点がある場合はその都度説明を行い、理解や納得して頂た上で、同意をして頂いている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様から苦情や要望、相談などの意見がいつでもできるように、意見箱の設置や意見しやすい環境作りにも努めている。	入居者や家族からの意見は、運営推進会議の際に聴き取る機会がある。また、面会や咲こまい祭り等の行事の際に聴取している。来所機会の少ない家族へは、電話をしている。写真付きボードを設置し、家族の要望でもあった職員紹介を行っている。月1度のおたより、ブログ更新と共にサービス内容を伝える取り組みをしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や定期的に職員と面談などの場を設け、コミュニケーションを図っている。それを踏まえ、職員からでた意見をできるだけ運営に反映出来る様努めている。	申し送りは、朝各フロア30分ずつ、フロア会議は月に1度行っている。意見、提案が活発になされており、備品購入の要望等、必要に応じて経営本部へ上げている。全員で出かける外出レクリエーションの企画を職員中心に進め、人員配置等の提案を受け入れる等、職員全体で関わりを持って運営されている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種資格手当や責任能力に応じた給与体系をとっている。また、様々な講習などの情報提供を促し、各自が向上心を持つような環境づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は施設外研修に正社員には勤務としてパートには受講料と交通費は支給し行きやすい環境づくりをしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中村区の認知症専門部会や近隣病院主催の研修に適時参加して、他のグループホームや施設の方と交流をもち、互いに情報交換することにより、サービスの向上・改善に努めている。中村区介護保険事務所連絡会に加入し研修にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に事前にアセスメントを行い、職員に利用者様の情報を把握して頂き、職員全体で統一した関わりを行う事で、安心して過ごせる雰囲気づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前にご家族様からもアセスメントを行い、意見や不安などを聞きだし、提案と一緒に解決していくことで安心して頂き、ホームへの信頼を得る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の事前面談時に利用者様本人、ご家族様から希望や要望などを伺い、どう過ごしていきたいか、何が必要かを話し合いながらサービス内容を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「利用者様」ではあるが、家族のような何でも話せる、信頼関係の強い関係を築いていきたい、ホームは家という考えを持ち、関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などに参加して頂き、本人との関わりを持ってもらい、またちょっとした変化も伝えていき、身近な存在である、離れていても安心して過ごしてもらえるよう関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や家族様が訪問時には居室やラウンジなどで個別の空間作りをしリラックスしてお話できる環境作りをしている。また、旦那様がおやつ時に奥様に面会をされた場合は一緒におやつを召し上がって頂くなど配慮している。	昔住んでいた家・栄デパートでの買い物・犬が見たい・コンパルで喫茶等、理念である「いきいきした輝きある暮らし」を実現するため、個別支援に力を入れて、個々の行きたい場所へ同行している。喫茶店へ通うことが馴染みの習慣である人の支援に、地域の喫茶店へ協力を依頼して実現に向けて取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格や利用者同士の相性などを見極めながら、時には職員が間に入るなどの配慮を行っている。また、個人の時間も尊重し、一人の時間も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後もこれまで同様、相談や情報提供などの支援がいつでもできるような関係で取り組みが出来るように努めている。退所されてからも行事へ参加された事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の事前アセスメントを基に本人の思いに沿った暮らしの支援を行っていくとともに、入居後も定期的に本人や家族様の希望や意向をケアプランに反映させている。	入居者が生きがいを持って暮らしていけるよう、本人の意向の把握を注意深く行い、職員へ、日々、聴き取る姿勢を持って対応することを伝えている。喫茶店や車中等、場所を変え、本人が落ち着いて話ができるよう配慮している。思いの表出が困難な人は、生活歴や家族からの情報を基に、居室担当職員が中心となって検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・ご家族様にアセスメントを行い、これまでの生活歴や生活環境を把握している。サービス利用があった場合は、その時の様子や内容を把握し、馴染みの暮らしができる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、一人一人の介護記録に利用者様の様子・体調の変化などを記録に残し、状況の把握に努めている。また、毎朝と夕方に申し送りを行って、職員間で情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に本人の様子や体調の変化などに注意し、どんなことでもご家族様に情報提供をし、思いを聞き取っている。また、定期的にモニタリングを行い、カンファレンスを開催して、ケアプランに反映している。	個別性ある計画を作成し、それに沿ったサービス提供がなされるよう、取り組んでいる。そのため、本人の希望と状態の把握に力を入れている。独自のアセスメントに、モニタリング時に蓄積させた情報を、プラン立案に活用している。本人、家族、職員からの意見、要望を反映させて作成しており、必要に応じて、主治医からも意見をj得ている。見直しは、更新時及び3カ月に1度のモニタリング時に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、利用者様の様子や言葉などを介護記録に記入している。また、職員の引き継ぎの時は、申し送りを行い、利用者様の状況や変化などを伝えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様のニーズに対しては、ホームで可能なサービスをご家族様にもご協力を頂き、状況に応じて行っている。また、外部のサービスも取り入れており、柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの訪問などを通して、興味や関わりを持ってもらい、また地域の催し物にも参加し、毎日の暮らしに楽しみを持ってもらう。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム入居後もかかりつけ医との関係を維持していき、必要に応じて情報を提供してもらったり、必要があれば診て頂く。本人とご家族様の意向を尊重し、適切な医療を受けられるように支援している。ご家族様と一緒に2ヶ月に1回近くの病院に通院してみる。また、甥の歯科医が治療に来られるように手続を進める予定である。	月に3回協力医の訪問診療を、定期及び不定期に受けており、週1回の訪問看護による健康チェックと個別に訪問歯科、眼科もある。かかりつけ医への受診は家族が同行している。体調急変時の協力医への連絡は、24時間可能である。協力医療機関である名鉄病院が開催する研修に、職員が参加している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護師がみえ、日ごろの健康管理や身体の変化が生じていないか、また相談や必要があれば適切な処置を行っている。24時間オンコール可能である。月に10回以上Drが往診に訪れる機会がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、速やかに看護師に情報提供書を作成してもらい、病院へ情報伝達を行っている。また、病院関係者との情報交換を頻回に行い、早期退院ができる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームでの「重度化における指針」を説明して同意を得ている。また、終末期におけるご家族様の意向も把握する努力をしている。ホーム内で、終末期の援助の場などの話し合いの場を設けて意見を共有している。看取りの方2名あり。	入居時に、終末期に関する意向を聴き取っており、その後、状態が変化する都度に確認している。看取りを行う際には、訪問看護師に研修を依頼し、職員間で情報共有を図っている。今後も、家族と連絡を密に、医師・訪問看護師・職員で連携を図りながら看取り支援に取り組んでいく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時や事故発生時の対応や予防策の話し合いを行っている。急変時や事故発生時に職員がパニックにならないよう応急手当などの研修にも行き、実践力を身に付ける努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行っている。地域にも防災訓練の参加を呼びかけ、協力を得られるような関係づくりに努めている。近隣の店舗に非常時のお願いにも行っている。	年に2回、昼間想定での防災訓練を実施している。1回目は、職員へも通知せず想定外の状況下で実行し、課題点の検証をした。2回目は、それを踏まえた訓練をし、職員へ周知徹底を図っている。職員からの、搬送具の必要性の提案により、担架、おんぶひもを購入している。また、学区の訓練へ参加し、炊き出し訓練、担架作りを行っている。水、食糧の備蓄は3日分。カセットコンロを2台備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様個人の人格を尊重し、一人一人に合った声掛けや接し方を行い、本人の人格を尊重して、ほこりやプライバシーを損ねない対応をしている。また、記録などには個人のプライバシーに配慮している。	個人情報であるブログやお便りの掲載は、入居時に同意を得て行っている。申し送り時等での、入居者を特定する話をする際には、部屋番号を用いている。新入職者へは、入居者とのコミュニケーションに重点を置いて指導している。研修期間は、管理者から見て、接遇を含め指導が徹底されたことを確認するまでとしている。	接遇について、年間研修計画に組み込み、各職員が、声かけや対応等の振り返りの機会を持たれることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表明したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを傾聴して本人の思いや希望が言いやすい関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、排せつ、入浴などの最低限の決まりはあるが本人の意思を尊重した暮らしを送ってもらっている。喫茶店でのお茶会など参加希望者と出かける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装で、本人が自己決定した服を着て頂き、室内、外出時と場面に合わせてふさわしい服装を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、利用者様と職員は同じテーブルを囲み食事を摂っている。利用者様にはお皿拭きなどを担当の仕事として行ってもらう、職員と一緒に片づけを行っている。嚥下状態を細かくチェックし提供し安定した食事摂取を心がけている。	1人1人の食を大切にしている。苦手な食材を把握し、別に替えて提供したり、形態を工夫する等試みている。入院していた入居者に対して、計画に挙げ支援した結果、普通食へ戻った事例もある。家族と相談しながら、時には、急きょ外食へ出かけたり、出前をとる等、その時のその人の食べたい意向が叶うよう尽力している。イベントの中で、安永餅など手作りおやつを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立を提供している。食事量・水分量は毎日職員が摂取量を把握している。個々に合わせて摂取時間や形態も工夫し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き・状況に応じて、舌磨き等の口腔ケアを行っている。また、義歯を使用している利用者様は毎晩洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。毎週月曜日に訪問歯科の治療もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人に合ったトイレ誘導に加え、食事前後などにも行うことにより、少しでも排泄感覚を取り戻してもらうよう支援を行っている。また、利用者様のサインを見落とさないよう少しの変化にも気づけるように努力している。	排泄チェック表を活用して、個々の排泄間隔を把握している。チェック表は、食事、水分摂取量の情報も共に記録できるよう、また、職員が意識を持って確認が行えるよう書式に工夫がある。病院から退院してきた人への排泄支援は、見守りを徹底し、事故防止に留意している。夜間の支援については、職員配置が1人体制であることを家族へ説明し理解を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便状況を把握している。運動や水分、食事摂取量などに配慮している。便秘が続いた時は、主治医処方の下剤を使用する事もあるが、極力自然排便が出来る様に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、時間やタイミングなど体調を考慮し取り組んでいる。	午前午後と、体調やタイミングに考慮しながら、週に2回入浴している。機械浴を導入しており、二人体制で支援している。入浴を拒む人へは、納得が得られるよう声かけに工夫している。職員は、入居者と会話をしたり、歌を歌う等して、安心して入浴できる環境を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせて、落ち着けるような声掛けなどを行っている。安眠の為に、室内の照明や室温調節を行って、安眠できる環境づくりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前には職員が名前・日付・服薬時を確認し、服薬後は口腔内の確認をしている。また、薬の変更があった場合は、理由などを申し送り、服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、リビング内の掃除・食器拭きなどを一人一人に合った能力や役割分担を行う事で、性格感を出している。また、責任感を持ってもらう事で、やる気の向上を図っている。鶏肉が嫌いな方の依頼により鮭フレーク等購入している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけ、ご近所の方と挨拶を交わすなど行っている。公園のベンチに座り、他利用者様たちと談笑されたり、外の環境にも触れて頂いている。また、近くの喫茶店や買い物にも出かけ、気分転換に努めている。個人レクも充実しており希望の場所にお連れしている。	理念である、利用者の「意思と可能性を尊重し、いきいきとした輝きある暮らしを支援する」ために、外出支援を、個別に、また、全体のレクリエーションとしても力を入れて取り組んでいる。個別支援は、個々の希望に添って担当職員が実践している。全体では、家族や職員、また職員関係者の協力を得て明治村へ出かけている。花見や外食へも行っている。また毎日、近隣の喫茶店へ散歩を兼ねて出かけており、地域との関係強化も図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の方がみえる利用者様に関してはご家族で管理して頂いているが、ホームで管理している利用者様もみえる。一緒に買い物へ行くときは、本人に渡して、ほしい物が購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の取次ぎがある時は行き、電話をかけたいと希望がある場合は、ホームの電話を貸している。手紙の投函を希望される場合は投函も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に落ち着いて過ごして頂けるよう、黄色の照明を使用している。また、季節にあった飾り付けをして季節感を出し、ゆったりとすごしていただけるよう工夫している。	十分なスペースが確保されている共用空間は毎日清掃されている。その広さは、入居者の歩行訓練に活用されている。また、浴室へ向かう少々の上り坂のスロープも、機能維持に活かされている。職員紹介ボードや入居者の作品、季節行事や花の紙細工で彩られた壁が、当ホームの陽気な雰囲気と調和している。入居者間の関係に配慮し、食事席の位置が工夫されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各リビングにはソファとテーブルがあり、プライベートな空間を用意している。居室とはまた違う空間があり、ゆったりと過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、今まで使っていた家具や寝具、お茶碗など自宅などにあるものを持ってきていただき、自宅と思って安心して頂けるように工夫している。	職員はチェック表を確認し、定期的なシーツの洗濯や布団干しを行い、快適な就寝環境の提供に努めている。絵画が趣味であった人の美術館風の居室や、昼食後、陽当りの良い居室に戻り、自身の洋服を整理されている方の、自宅にいるような居心地良さそうな表情が印象的であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人の「できること」と「できないこと」を職員が把握し、「できること」を役割としてやっていただく。また、居室やトイレが分かりやすいように工夫し、自立した生活が送れるように支援している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム咲こまい

目標達成計画

作成日: 平成 28 年 2 月 7 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	ビルの2、3Fに所在する施設なので日中、夜間の災害対策として、職員一同避難対応の把握と実施がスムーズにできるか。	2ヶ月に1回のペースで避難訓練と夜間時、夜勤者の避難誘導の把握の徹底。	避難訓練のリーダーを職員の中で必ず1回は担当し意識を高める。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。